

「鳥取市緑の基本計画（改定案）」市民政策コメントに対する市の考え方

- ・実施期間：令和7年12月15日（月）から令和8年1月5日（月）まで
- ・意見応募者数：3名
- ・意見等の総数：3件

意見NO.	ご意見	市の考え方
1	<p>（公園の整備・管理について）</p> <p>子供が自然と触れ合いながら公園で遊べるように整備をして欲しい。近所の公園は雑草が多く遊具も撤去されたので遊ぶのに適していない。芝生を整備して雑草対策もして欲しい。小さい子供も安心して遊べるようにサークルの設置や、ボール遊びが出来るように防球ネットがあれば遊びやすい公園になる。</p> <p>また、四季を感じられる植栽をしてもらうとともに、害虫対策（毛虫や蜂等）もしてもらえると嬉しいです。定期的な芝刈りや剪定、倒木の危険性がある木の伐採もして欲しい。</p>	<p>この度いただいたご意見は、安心して利用できる公園の保全に向け、今後の参考とさせていただきます。</p>
2	<p>（里山・自然景観の保全について）</p> <p>佐治町や用瀬町などを始めとした中山間地域は、自然の豊かさや美しさと言った観点で、近隣の岡山県鏡野町やその他観光客を誘致できている他地域と同じ様なポテンシャルはあると思うが、自分自身も休日に行ってみようとはなりにくい。</p> <p>自然が手つかずな印象があるので、遠くから訪れてでも見たい景色や場所ができれば地元の人も大切にしたいとか守ろうといった機運が高まるように思う。</p>	<p>里山を形成する森林、農地などの機能が発揮されるよう維持・保全を図ることが、自然景観の保全や、観光資源となりうる自然とふれあう良好な空間の創出につながるものと考えます。里山を維持・保全していくための支援体制や仕組みの充実、意識の醸成などを通じて、豊かな緑の保全・創出に努めてまいります。</p>
3	<p>（計画全体について）</p> <p>私は仕事の関係で長期間海外に居住していましたが、鳥取に戻り、鳥取城跡や袋川沿いの桜並木に触れた際、鳥取のまちが持つ「緑」の価値をあらためて強く実感しました。これらの緑は、単なる景観資源ではなく、地域の歴史や文化、住民の生活と深く結びついた、鳥取らしさを象徴する重要な要素であると感じています。</p> <p>一方で、人口減少や都市機能の効率化が進む中、緑地や自然環境が十分な議論を経ないまま失われていく可能性も否定できません。だからこそ、鳥取を象徴する「緑」とは何か、また将来世代に確実に残していくべき「緑」とは何かについて、行政として明確な整理と方針を持つことが重要であると考えます。</p> <p>短期的な利便性や経済合理性のみを基準とするのではなく、歴史的・文化的価値、住民の心の拠り所としての役割、さらには観光・移住促進といった中長期的視点を踏まえ、保全すべき緑を戦略的に位置づけていく必要があります。</p> <p>鳥取の魅力と持続可能性を高めていくためにも、どの緑を守り、どの緑を活かし、次の世代へ引き継いでいくのかについて、行政主導のもとで丁寧な検討と議論が進められることを強く期待します。</p>	<p>本計画は、「『鳥取らしい地域の風土にあったうるおいのある緑』を未来に引き継いでいく」ことを基本理念とし、「みんなで広げ、未来へ伝える 豊かな緑」をテーマとして設定しています。本市の豊かな自然、地域の象徴となる緑を後世へ引き継ぐ財産として、今後も緑のまちづくりに取り組んでまいります。</p>